

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第15回運営委員会議事次第

- 1 日時：令和5年9月21日（木） 14時00分～15時00分
- 2 場所：NTT 宇宙環境エネルギー研究所（NTT 武蔵野研究開発センタ）及びオンライン（Zoom）
- 3 議事

### I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

#### 【審議事項】

- (1) 運営委員会委員の交代について……………資料1
- (2) その他

#### 【報告事項】

- (1) 「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告」Vol.1 発行について……………別添資料
- (2) 5D-MaaS 共創拠点との共同シンポジウム開催報告（R5.9.10）……………資料2
- (3) JST「共創の場形成支援プログラム」本格型申請について……………資料3
- (4) 「Security Days Fall 2023」への後援について……………資料4
- (5) その他
  - ・次回運営委員会の開催地について

### II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

#### 【審議事項】

- (1) R2EC 就職説明会について……………資料5
  - ・各機関が研究内容と就職情報を紹介
- (2) その他

#### 【報告事項】

- (1) 令和5年度協働大学院教員について……………資料6
- (2) 令和6年度大学院入試（令和5年度実施入試）について……………資料7
- (3) リカレント教育推進事業について……………資料8
- (4) その他
  - ・「大学院教育改革フォーラム2023」開催について……………資料9

#### （配付資料）

- 第15回運営委員会出席者名簿……………P.3～
- 資料1 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）……………P.4～
- 資料2 「5D-MaaSによる空から創る未来のまち in 広島」写真記録・アンケート結果……………P.5～
- 資料3 「フェーズフリーな超しなやか社会」を実現する5D-MaaS共創拠点 事業概要……………P.28～
- 資料4 Security Days Fall 2023 後援承諾書・依頼書・開催概要……………P.40～
- 資料5 令和5年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム年間活動計画（案）……………P.44～
- 資料6 令和5年度筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム協働大学院教員一覧 P.45～
- 資料7 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレット……………P.46～
- 資料8 リカレント教育推進事業実施について……………P.48～
- 資料9 「大学院教育改革フォーラム2023」開催案内・リーフレット……………P.55～



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第15回運営委員会 出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

現地出席

Zoom出席

出欠	機関名	委員	委員代理	陪席者
出席	セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文		IS研究所 企画グループ 主務 小松原 康弘
出席	大日本印刷	メディカルヘルスケア本部第2ユニット事業開 発第2部第3グループ グループリーダー 前田 賀隆		
出席	日本電気	セキュアシステムプラットフォーム 研究所 主任研究員 柳生 智彦		
出席	東急プロパティマネジメント	BC研究センター センター長 狩矢 淳雅		BC研究センター 次長 松本 幸一
出席	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長 秋山 一也		レジリエント環境適応研究プロジェ クト 主任研究員 小山 晃
出席	東京海上日動火災保険	アドバイザー 林 春男		dX推進部 BD室 柴崎 紘基
出席	東急総合研究所	研究部 主任研究員 真城 源学		主任研究員 市村 健一
欠席	DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆		
出席	電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	企画グループ 主任 舟橋 卓	
出席	日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員 安部 原也		
出席	電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長 福島 幸子		
出席	産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 玄地 裕		エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹 杉山 勇太
出席	防災科学技術研究所	理事長 寶 馨		企画部 部長 松室 寛治
				次長 松本 拓己 研究推進課 係員 菊池 文太
欠席	労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理 山際 謙太	機械システムグループ 主任 岡部 康平	
出席	NCDR (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li		
出席	筑波大学	システム情報系 教授 理工情報生命学院システム情報工学研究群長 遠藤 靖典		システム情報エリア支援室 コンソーシアム事務局 酒井 美和 コンソーシアム事務局 根本 美南 共創の場事務局 本瀬 良子 共創の場事務局 黒川 聡史
出席		システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー 岡島 敬一		
出席		レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 国立大学法人筑波大学 システム情報エリア支援室 コーディネーター 石濱 悟		

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
副会長 甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
前田 賀隆	大日本印刷株式会社	メディカルヘルスケア本部第2ユニット事業開 発第2部第3グループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式 会社	BC研究センター センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	アドバイザー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	株式会社東急総合研究所	研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
秋山 一也	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航 空技術研究所 電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
玄地 裕	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
◎ 会長 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位ブ ログラムリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
石濱 悟	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 専門員（コー ディネーター）	第8条第4項(2) 第9条第4項(2)

◎は議長を示す

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

## 5D-MaaS による空から創る未来のまち in 広島 シンポジウム・意見交換会 記録写真

1. 日時：2023年9月10日（日）13:00-17:30
2. 場所：広島コンベンションホール1階（広島市東区二葉の里3丁目5番4号）&Zoomによる配信
3. 参加者
  - ・シンポジウム：会場参加65名、オンライン参加30名
  - ・意見交換会：会場参加56名（8自治体参加）、オンライン参加7名（3自治体参加）
4. シンポジウム ※プログラム順に記載



進行説明 奥村 奈津美氏（防災アナウンサー）



開会挨拶 寶 馨氏（防災科学技術研究所 理事長）



来賓挨拶① 湯崎 英彦氏（広島県知事）



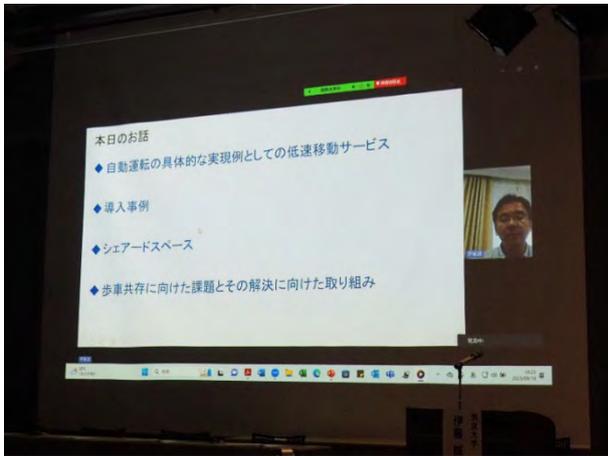
来賓挨拶② 財満 鎮明氏（JST 共創の場形成支援プログラム 共創分野・地域共創分野 第5領域 プログラムオフィサー）



趣旨説明 遠藤 靖典氏（筑波大学システム情報系 教授）



基調講演「そらを活用したミライのまちづくりのアプローチ」  
白坂 成功氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・  
マネジメント研究科 教授）



話題提供①「自動運転のあるまち ー道路の広場化、広場の道路化ー」  
伊藤 誠氏（筑波大学システム情報系 教授）※オンライン



話題提供② 「シマの暮らしを支えるドローンプロジェクト」  
佐多 勝氏（鹿児島県瀬戸内町役場企画課産業立地係 係長）



菅見 昭夫氏（日本航空デジタルイノベーション本部  
エアモビリティ創造部 担当部長）

・パネルディスカッション「5D-MaaSによる空から創る未来のまち」

パネリスト：遠藤 靖典氏（趣旨説明）、白坂 成功氏（基調講演）、  
伊藤 誠氏（話題提供①）、佐多 勝氏（話題提供②）、菅見 昭夫氏（話題提供②）、  
中内 靖氏（筑波大学システム情報系 教授）

モデレーター：北原 格氏（筑波大学計算科学研究センター 教授）

ディスカッション概要：

基調講演と話題提供から、主に以下のような討論があった

- ・人々の認知や行動等の多様性の取捨選択時の心構え・アプローチ、意見の収束の仕方について
- ・奄美大島の言葉「うんじゃし（入り方・始め方）」の重要性とドローンの受入れ促進のための環境づくりについて
- ・ドローンが社会的に受け入れられるようになるための安全確保や社会受容性確保について
- ・経済的合理性の担保やトラブル時に安全なドローン（機体・落下場所等）の開発について



写真左：北原氏、佐多氏、菅見氏、白坂氏、中内氏、遠藤氏



写真右(スクリーン)：伊藤氏（オンライン）



閉会挨拶 重田 育照氏（筑波大学副学長・理事（研究担当））

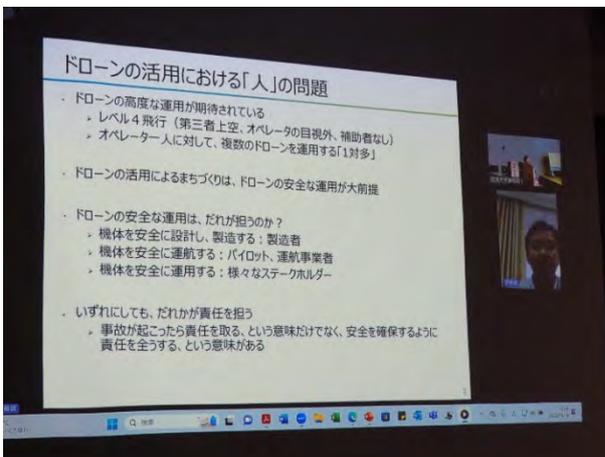
5. 意見交換会 ※プログラム順に記載



司会進行 馬場 のぶえ氏 (広島テレビ放送アナウンサー)



趣旨説明 酒井 直樹氏 (防災科学技術研究所水・土砂防災研究部門 副部門長)



話題提供① 「ドローンでまちづくり、シミュラでひとづくり」  
伊藤 誠氏 (筑波大学システム情報系 教授)



話題提供② 「神石高原町でのドローン防災活用の取組みについて」  
宮池 研吉氏 (株式会社 DroneScenery 代表取締役)



話題提供③ 「平成 30 年 7 月豪雨災害における消防活動」  
中井 英視氏 (広島市消防局警防課 課長補佐)

・意見交換① 「ドローン活用による安全・安心なまち」

意見交換② 「5D-MaaS に期待すること」

パネリスト：伊藤 誠氏（話題提供①）、 宮池 研吉氏（話題提供②）、 中井 英視氏（話題提供③）、  
中内 靖氏（筑波大学システム情報系 教授）、 北原 格氏（筑波大学計算科学研究センター 教授）、  
延原 肇氏（筑波大学システム情報系 教授）、 岡島 敬一氏（筑波大学システム情報系 教授）、  
内山 庄一郎氏（防災科学技術研究所マルチハザードリスク評価研究部門 主任専門研究員）

モデレーター：酒井 直樹氏

意見交換概要：

主に以下のような討論があった

- ・各自治体のドローン活用状況、今後のドローン活用方針について
- ・災害時の連携と情報共有の重要性について
- ・奄美大島瀬戸内町のミニ防災訓練での災害状況収集ツール「リスクロ LINE チャットボット」の活用事例紹介
- ・まちづくりに必要な DX 化・法整備の重要性について



自治体との意見交換の様子①



自治体との意見交換の様子②



意見交換会終了後の集合写真



シンポジウム  
意見交換会  
アンケート結果

最終更新日:2023/9/19

<b>1. シンポジウム</b> .....	<b>p.3</b>
<b>概要</b>	
• シンポジウム実施方法	
• シンポジウム実施内	
<b>アンケート</b>	
• アンケート質問項目	
• 【所属機関別】の回答数	
• 【本シンポジウムを知ったきっかけ別】の回答数	
• 満足度	
• 自由記述回答結果	
<b>2. 意見交換会</b> .....	<b>p.11</b>
<b>概要</b>	
• 意見交換会実施方法	
• 意見交換会実施内容	
<b>アンケート</b>	
• アンケート質問項目	
• 【所属機関別】の回答数	
• 【本シンポジウムを知ったきっかけ別】の回答数	
• 満足度	
• 自由記述回答結果	

# 1.シンポジウム

No.	項目	内容
1	テーマ	未来につながる —5D-MaaSによる空から創る未来のまち—
2	シンポジウム実施方法	オンサイト（広島コンベンションホール） オンライン（Zoomウェビナー）
3	シンポジウム参加人数	オンサイト 62名 オンライン 30名
4	シンポジウム実施内容	P5参照
5	アンケート実施方法	ウェビナーアンケート、紙 ※来場者のみに紙配布
6	アンケート回答期間	2023年9月10日
7	アンケート質問項目	P6参照

**2** 13:00-15:45

一般公開

会場&Web

事前申込制

## シンポジウム

未来につながる —5D-MaaSによる空から創る未来のまち—

■ 会場：広島テレビホール(広島コンベンションホール1階)&Web

■ 対象：大学・研究機関・企業・自治体・市民の方など

■ プログラム 進行：奥村奈津美(防災アナウンサー・フリー)

- 13:00-13:05 進行説明  
奥村奈津美(防災アナウンサー・フリー)
- 13:05-13:10 開会挨拶  
寶馨(防災科学技術研究所 理事長)
- 13:10-13:20 来賓挨拶①  
湯崎英彦(広島県知事)
- 来賓挨拶②  
財満鐘明(JSTプログラムオフィサー/名城大学大学院理工学研究科 教授/名古屋大学 名誉教授)
- 13:20-13:35 趣旨説明  
遠藤靖典(筑波大学システム情報系 教授)
- 13:35-13:55 基調講演「そらを活用したミライのまちづくりのアプローチ」  
白坂成功(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
- 13:55-14:15 (休憩)
- 14:15-14:45 話題提供①「自動運転のあるまち 一道路の広場化、広場の道路化」  
伊藤誠(筑波大学システム情報系 教授)
- 話題提供②「シマの暮らしを支えるドローンプロジェクト」  
佐多勝(鹿児島県瀬戸内町役場企画課産業立地係 係長)
- 菅見昭夫(日本航空デジタルイノベーション本部エアモビリティ創造部 担当部長)
- 14:45-15:40 パネルディスカッション「5D-MaaSによる空から創る未来のまち」  
▶パネリスト：白坂成功、伊藤誠、佐多勝、菅見昭夫、遠藤靖典、  
中内靖(筑波大学システム情報系 教授)
- ▶モデレーター：北原格(筑波大学計算科学研究センター 教授)
- 15:40-15:45 閉会挨拶  
重田育照(筑波大学副学長・理事(研究担当))



白坂成功教授



伊藤誠教授



佐多勝氏



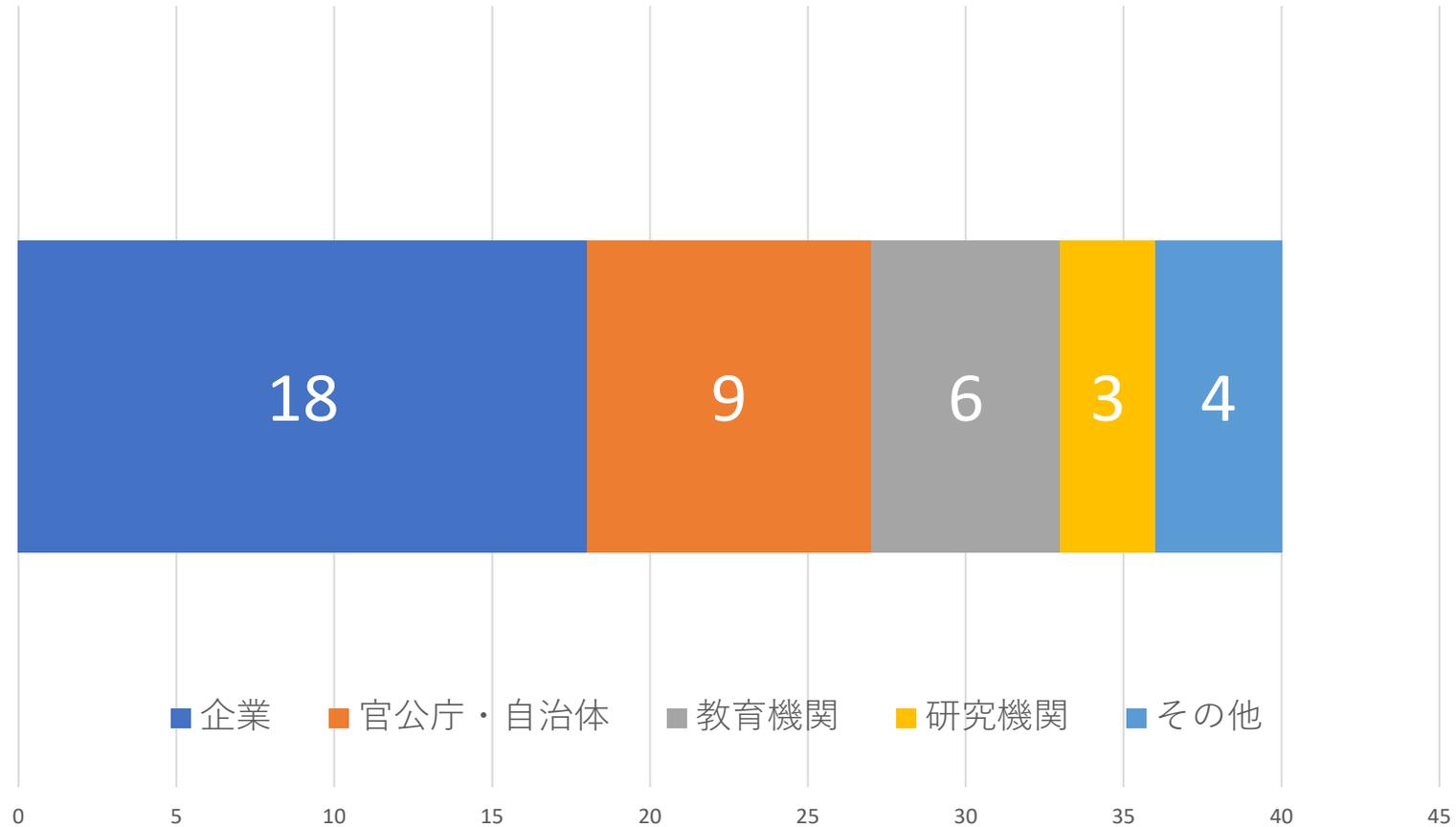
菅見昭夫氏



No.	分類	内容
1	所属機関	Q1. ご自身の所属機関等について教えてください。
2	本シンポジウムを知ったきっかけ	Q2. 本シンポジウムをどの媒体で知りましたか。
3	満足度 (※)	Q3. 貴重講演「そらを活用した未来のまちづくりのアプローチ」(講演者：白坂成功氏) について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
4		Q4. 話題提供①「自動運転のあるまちー道路の広場化、広場の道路化ー」(講演者：伊藤 誠氏) について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
5		Q5. 話題提供②「シマの暮らしを支えるドローンプロジェクト」(講演者：佐多勝氏、筈見 昭夫氏) について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
6		Q6. パネルディスカッション「5D-MaaSによる空から創る未来のまち」について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
7	自由記述	Q7. シンポジウム全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本事業で取り組んでほしいことなど、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

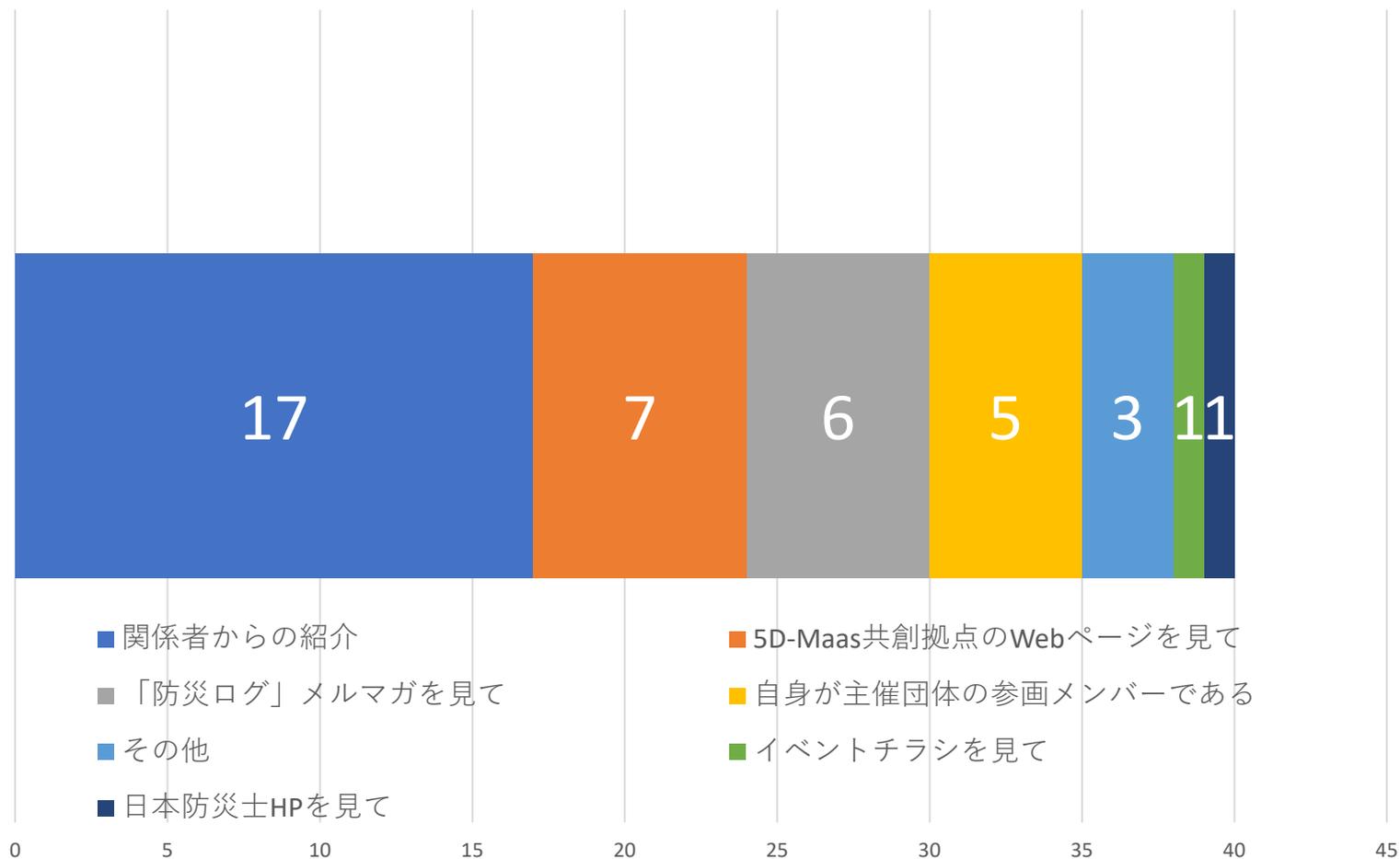
(※) 「大いに役立つ」「まあまあ役立つ」「どちらとも言えない」「あまり役立たない」「まったく役立たない」の5段階評価

Q1. ご自身の所属機関等について教えてください<回答数40>



集計結果 | 最も回答数が多かったのが「企業」18件、次いで「官公庁・自治体」が9件

## Q2. 本シンポジウムをどの媒体で知りましたか<回答数40>



集計結果

最も回答数が多かったのが「関係者からの紹介」17件、次いで「5D-Maas共創拠点Webページをみて」が7件

17

Q3. 貴重講演「そらを活用した未来のまちづくりのアプローチ」（講演者：白坂 成功氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数40〉



Q4. 話題提供①「自動運転のあるまち一道路の広場化、広場の道路化」（講演者：伊藤 誠氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数40〉



Q5. 話題提供②「シマの暮らしを支えるドローンプロジェクト」（講演者：佐多 勝氏、筈見 昭夫氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数39〉



Q6. パネルディスカッション「5D-MaaSによる空から創る未来のまち」について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数38〉



■ 大いに役立つ   ■ まあまあ役立つ   ■ どちらとも言えない   ■ あまり役立たない

集計結果   全ての項目において、「大いに役立つ」+「まあまあ役立つ」が8割を超えている

## Q7. 意見交換会全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本事業で取り組んでほしいことなど、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- ・人間中心のアプローチという内容が興味深かった。視点を改めて考える重要性が認識できた。
- ・ドローンが飛ぶところを見たかった。事業としてどう成り立つことができるか、ビジネスモデルをどうするか。
- ・本日も大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・これそのものもさることながらアプローチ法が参考になった。
- ・すばらしい内容で大満足です
- ・白坂先生の話が非常に興味深い。実証実験どまりではなく、社会実装を考えて行くうえでアーキテクチャ設計は非常に重要でありコンソーシアムにおいても適宜連携していく必要がある。様々なドローン関係の実証実験があるが本プロジェクトならではの取り組みを期待しております。
- ・異なる意見を排除するのではなく、その視点を取り入れていく、大切なことだと思いました。ありがとうございました。
- ・パネルディスカッションの経済合理性の話が一番興味深かった。B2G→B2B→B2Cという段階的な進め方もあれば、地域住民のインフラとして支える形など。実証事件を実際の社会実装につなげるには、早い段階から拡大実証のシナリオを描いておくことが重要なのだと感じました。アーキテクチャWG役割は今後重要になりますね。
- ・SD-MaaSが目指す世界が、もし関東大震災の時に実現したらどのように震災をのがれることができたと思われるか、平時の生活がどのように豊かになったか、のような思考実験などがあるとわかりやすそうに思いました。
- ・防災につながる部分の拡大、実現化に期待します。有事に動けるドローンは実現するのか？雨、風。
- ・技術開発を進める上での方法論として、バックキャスト方式が有用であることが認識できた。専門家バイアスにも注意が必要であり他分野・素人の意見を聞く重要性も認識できた。道路と広場の境界を取り除き、歩行重視と賑わい創出の取り組みも興味深かった。
- ・日頃考えていない内容について講演・ディスカッションが認識することができました。参考にさせていただきます。
- ・平時と災害時を区別しない「フェーズフリー」というキーワードが印象的でした。また、専門家バイアスに陥らないためには、多様性を無視できず、重要な視点であると感じました。
- ・認知バイアス、専門家バイアスを多様性のもとで得られる体験価値で超えて行くという点に大変共感しました。
- ・たくさんの方の貴重なお話を聞く事ができ、大変良かったです。様々な考え方を今後の自身の目標や仕事に生かしていきたいと思いました。また、東京や関東近辺で開催された際には現地で直接参加したいと思いました。本日はありがとうございました。
- ・協働の大切さ
- ・人間中心、フィールドワーク、経済合理性
- ・非常におもしろいシンポジウムでした。もう少しパネルディスカッションの討議の時間があればよかったですと思います。
- ・新しいことを考えるときの視点をどこにおくか、誰におくかで開発する商品が変わってくるということが興味深かった。今後、空の活用が活発に行われるとしても事故だけはおこらないようにしてもらいたい。

## 2.意見交換会

No.	項目	内容
1	テーマ	コミュニティがつながる ドローン活用による安全・安心なまち
2	意見交換実施方法	オンサイト（広島コンベンションホール） オンライン（Zoom）
3	意見交換参加人数	オンサイト 54名 オンライン 7名
4	意見交換実施内容	P13参照
5	アンケート実施方法	Google Forms、紙 ※来場者のみに紙配布
6	アンケート回答期間	2023年9月10日
7	アンケート質問項目	P14参照

3 16:00-17:30

関係者限定

会場&Web

事前申込制

## 広島県内自治体 意見交換会

コミュニティがつながる ドローン活用による安全・安心なまち

■会場：広島テレビホール(広島コンベンションホール1階)&Web

■対象：広島県内自治体職員

■プログラム 進行：馬場のぶえ(予定)(広島テレビ放送アナウンサー)

16:00-16:05 趣旨説明

酒井直樹(防災科学技術研究所水・土砂防災研究部門 副部門長)

16:05-16:35 話題提供①「ドローンでまちづくり、シミュレータでひとづくり」

伊藤誠(筑波大学システム情報系 教授)

話題提供②「神石高原町でのドローン防災活用の取組みについて」

宮池研吉(株式会社DroneScenery 代表取締役)

話題提供③「平成30年7月豪雨災害における消防活動」

中井英視(広島市消防局警防課 課長補佐)

16:35-17:25 意見交換①「ドローン活用による安全・安心なまち」

意見交換②「5D-MaaSに期待すること」

▶パネリスト：伊藤誠、宮池研吉、中井英視、中内靖、北原格、  
延原肇(筑波大学システム情報系 教授)、  
岡島敬一(筑波大学システム情報系 教授)、  
内山庄一郎(防災科学技術研究所マルチハザードリスク評価研究部門主任専門研究員)

▶モデレーター：酒井直樹

17:25-17:30 総括

遠藤靖典(筑波大学システム情報系 教授)



伊藤誠教授



宮池研吉氏

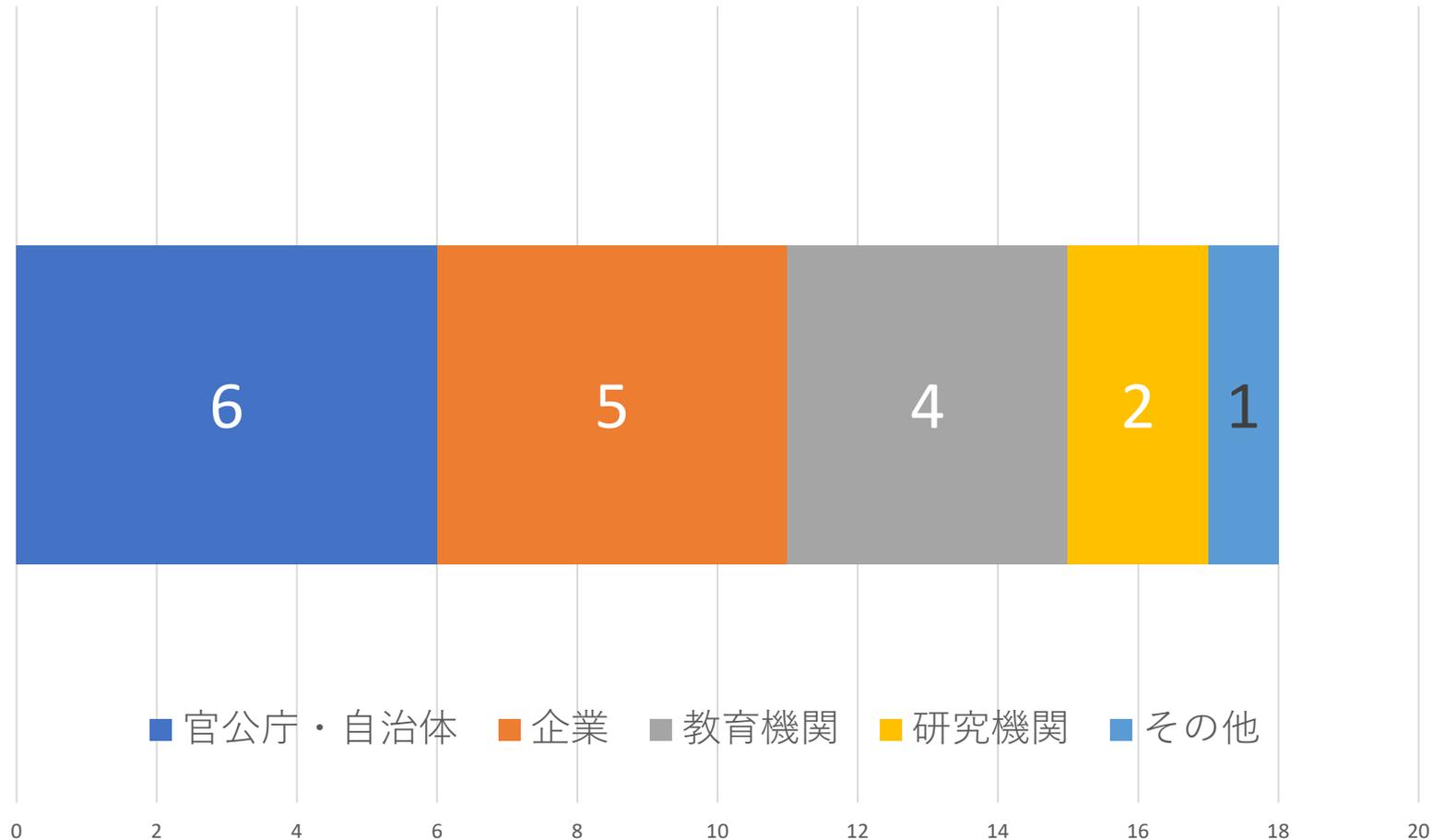


中井英視氏

N o.	分類	内容
1	所属機関	Q1. ご自身の所属機関等について教えてください。
2	意見交換を知ったきっかけ	Q2. 意見交換をどの媒体で知りましたか。
3	満足度 (※)	Q3. 話題提供①「ドローンでまちづくり、シミュレータでひとづくり」（講演者：伊藤 誠氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
4		Q4. 話題提供②「神石高原町でのドローン防災活用の取組みについて」（講演者：宮池 研吉氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
5		Q5. 話題提供③「平成30年7月豪雨災害における消防活動」（講演者：中井英視氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
6		Q6. 意見交換会全体を通して、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
7	自由記述	Q7. Q7.（自治体の方対象）ご自身の市町村で取り入れたい新しい技術がありましたら、活用例と合わせてご記入ください。
8		Q8. シンポジウム全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本事業で取り組んでほしいことなど、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

(※) 「大いに役立つ」「まあまあ役立つ」「どちらとも言えない」「あまり役立たない」「まったく役立たない」の5段階評価

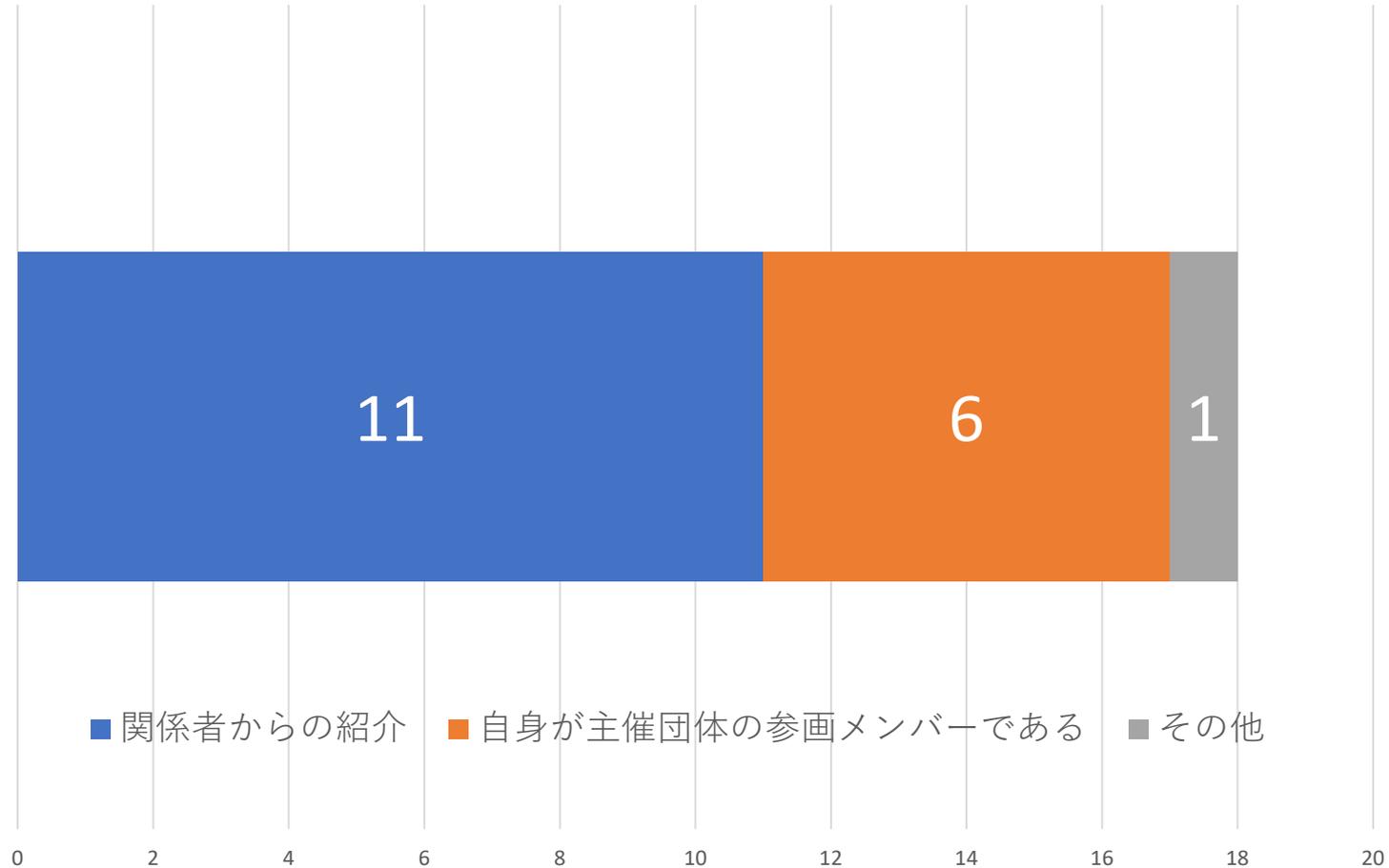
Q1. ご自身の所属機関等について教えてください<回答数18>



集計結果

最も回答数が多かったのが「官公庁・自治体」6件、次いで「企業」が5件

## Q2. 意見交換をどの媒体で知りましたか<回答数18>



集計結果	最も回答数が多かったのが「関係者からの紹介」11件、次いで「自身が主団体の参画メンバーである」が6件 <b>25</b>
------	---

Q3. 話題提供①「ドローンでまちづくり、シミュレータでひとづくり」（講演者：伊藤 誠氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。 <回答数18>



Q4. 話題提供②「神石高原町でのドローン防災活用の取組みについて」（講演者：宮池 研吉氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。 <回答数18>



Q5. 話題提供③「平成30年7月豪雨災害における消防活動」（講演者：中井 英視氏）について、ご自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。 <回答数18>



Q6. 意見交換会全体を通して、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。 <回答数17>



0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20  
■ 大いに役立つ      ■ まあまあ役立つ      ■ どちらとも言えない

**集計結果**      全ての項目において、「大いに役立つ」+「まあまあ役立つ」がほぼ8割を超えている

「大いに役立つ」「まあまあ役立つ」「どちらとも言えない」「あまり役立たない」「まったく役立たない」の5段階評価

## Q7.（自治体の方対象）ご自身の市町村で取り入れたい新しい技術がありましたら、活用例と合わせてご記入ください

- ・土地の現状を調査する業務（農地、林地、地籍調査等）
- ・ドローン（情報収集、物質運搬、コミュニケーション）、行政防災無線のICT可
- ・安心安全なまちづくりを担う技術として猪が例として意見が出ましたが、サルについても同様に対策が取れればと思います。

サルが住宅街や個人の畑に出没した際には住民の方々から通報をいただき職員が出動します。しかし対策として駆除が難しく、大きな音を出して逃がすにとどまっています。ドローンの持つ人が通れない場所に迎えるという特性を利用し、上空からの威嚇を行うことにより、職員が現地へ出動することなくより効果的な対処ができればと思います。

## Q8. 意見交換会全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本事業で取り組んでほしいことなど、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- ・「安心の本質とは何か」日本セキュリティマネジメント学会誌Vol.3,PP.3-21(2021)(J-Stage)に書いた内容を平時においてドローンを使って実現することで、人々の「安心」の醸成につながるのではと思いました。
- ・自治体によるドローン保有の難しさを知ることができよかったです。
- ・フェーズフリーでのドローン活用には、法の整備がまだ追いついていないと感じます。
- ・産官学また他地域が連携していろいろな視点からドローンが活用できるとよい。
- ・本日は貴重なご講演をありがとうございました。
- ・広島ならではの事例や地域課題をお伺いできたのは、非常に興味深かった。引き続き、地域課題と踏まえた活動と水平展開を期待します
- ・鳥獣把握を平時から行うといったアイデアは、住民が住んでいるところでガンガンドローンを使ってみるという点で面白く感じた。（災害時に向けた習熟度と上げるという意味で）
- ・災害時に目が固定され、フェーズフリーの視点が少なかったので、今後、考えていきたい。



COI-NEXT



# 「フェーズフリーな超しなやか社会」 を実現する5D-MaaS共創拠点 事業概要について

プロジェクトリーダー  
筑波大学システム情報系・教授  
システム情報工学研究群長 遠藤 靖典

※国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)  
共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)  
共創分野・育成型 2022年度採択事業

### プログラムの概要

- 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の公募型プロジェクト。
- 大学を中心とした産学官共創により、ウィズ／ポストコロナ時代を見据えつつ、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン (地域共創分野では地域拠点ビジョン) として掲げ、その達成に向けた①バックキャスト※によるイノベーションに資する研究開発と、②自立的・持続的な拠点形成が可能な産学官連携マネジメントシステムの構築をパッケージで推進。
- これにより、大学等や地域の独自性・強みを活かしつつ産学官共創拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進。

**「人が変わる」**  
SDGs×ウィズ/ポストコロナに係るビジョンを共有

**「大学が変わる」**  
持続的な産学官共創システムの整備・運営

**「社会が変わる」**  
科学技術イノベーションによる社会システムの変革

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、SDGsに基づく未来のありたい社会像を探索し、参画する組織のトップ層までビジョンを共有。ウィズ／ポストコロナ時代の国の成長と地方活性化、持続可能な社会の実現を目指す。

産学官共創拠点を自立的に運営するためのシステム (産学官共創システム) を構築。プロジェクト終了後も、代表機関が中心となり持続的に運営。

ビジョンからバックキャストし、研究開発目標と課題を設定。組織内外の様々なリソースを統合することで最適な体制を構築し、イノベーション創出に向けた研究開発を実施。ビジョン実現に必要な社会実装、社会システム変革を目指す。

### プログラムのコンセプトイメージ



	共創分野	地域共創分野	政策重点分野
対象分野 医療分野に限定される研究開発は対象外	科学技術分野全般	科学技術分野全般	国の政策方針に基づき文部科学省が設定（令和4年度は量子技術分野）
制度趣旨	大学等を中心とし、国レベル・グローバルレベルの社会課題を捉えた未来のありたい社会像の実現を目指す、国際的な水準の自立的・持続的な産学官共創拠点の形成	地域大学等を中心とし、地方自治体、企業等とのパートナーシップによる、地域の社会課題解決や地域経済の発展を目的とした、自立的・持続的な地域産学官共創拠点の形成	大学等を中心とし、国の重点戦略に基づき成果を生み出す、国際的にも認知・評価が高い自立的・持続的な産学官共創拠点の形成
実施機関の構成要件	大学等を代表機関とし、企業等を含む3機関以上の連名による申請（うち、少なくとも1機関は民間企業であること）	地域大学等を代表機関とし、1つ以上の民間企業、1つ以上の幹事自治体を含む3機関以上の連名による申請	大学等を代表機関とし、企業等を含む3機関以上の連名による申請（うち、少なくとも1機関は民間企業であること）
支援期間	育成型：2年度 本格型：最長10年度	育成型：2年度 本格型：最長10年度	本格型：最長10年度

### 深刻な人材不足

人口減少・超高齢化

### 大規模災害の増加

気候変動、地震、疫病、戦争

### 広がる格差

社会サービスの不安定化

人材不足による、「命を守るサービス」の  
遅延・絶対的不足

地域格差・経済格差による、自らの地域の  
災害に自ら対応する能力の不均衡

### 理想の社会づくりにおける基本的な考え方

災害を特別視せず、平時と災害時を同一軸上の連続なものとして捉え、平時と災害時を区別なく対応できる**フェーズフリー**の社会作り

平時

災害時

31

平時

災害時

### 理想とする社会像

世界的に人口の減少・高齢者割合の増加、住環境や経済等に起因する格差、疫病や戦争が社会サービスの不安定化をもたらしている中で、

- 平時から災害時までダイナミックに変化する状況にフェーズフリーに対応し
- いついかなる時も1人も取りこぼすことなく
- 格差に左右されず
- 全ての人々の生命と財産を守り
- 社会活動を安定に維持することのできる

柔軟でレジリエントな社会

「ICTを活用して災害・危機に柔軟に対応するしなやか社会」を超えた  
**「フェーズフリーな超しなやか社会」**

**全ての人々を身体的にも精神的(格差に左右されない)にも  
社会的(社会活動の安定)にも満たされたwell-beingに導く基盤**

### 陸のモビリティ

馬車、自動二輪車、  
自動車、鉄道

- 古くからの歴史
- 現在も進化

### 海のモビリティ

筏、船舶、潜水艇

- 陸のモビリティと同様の歴史と発展

### 空のモビリティ

航空機、空飛ぶクルマ、**UAV★**

- ① 高速移動が可能
- ② 専用路の設置費用を大幅削減
- ③ 交通限定地域に対するモビリティ向上
- ④ 渋滞がほとんどなし
- ⑤ 災害時の救護者発見・保護や救援物資の輸送が容易

- ⑥ 取り扱いが容易で手軽に導入が可能
- ⑦ 設備や維持の費用を大幅に削減
- ⑧ 飛行の準備から終了までの時間を大幅に短縮
- ⑨ 無人の自動遠隔操縦が可能
- ⑩ 無人の自動操縦のために操縦士への危険が皆無

UAVの優位性

- ⑪ 気象等に対する航空機レベルの安定した航空性能
- ⑫ 物資の運送能力
- ⑬ 最適分散制御技術による運航
- ⑭ 十分な駆動時間
- ⑮ UAVを用いて得られた情報の解析手法
- ⑯ UAVの特徴を活かす法整備
- ⑰ UAVを既存のビークルと同様に受け入れる社会的合意の形成
- ⑱ UAVを中心とした空のモビリティに基づく都市計画

UAVの課題

### 拠点ビジョン

## 人々をwell-beingに導く 「フェーズフリーな超しなやか社会」の実現

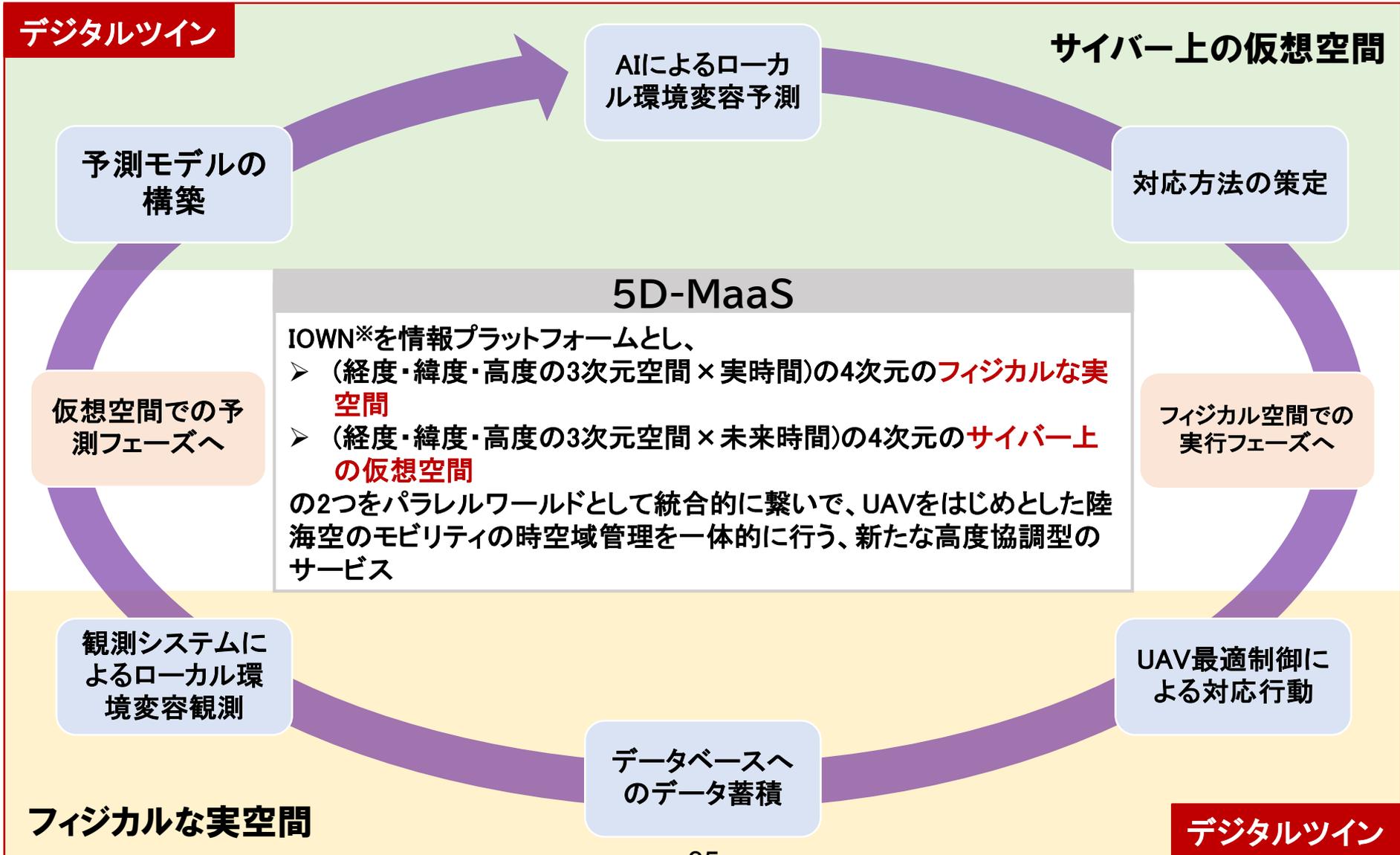
### 実現に必要な仕組み

- ◆ 人手が少なくとも全ての人々の生命と財産を守る仕組み
- ◆ その仕組みが平時・災害時を問わず、状況に応じた最適な機能を発揮
- ◆ 全ての人々を見守るために、その仕組みが人々の周りに常駐

### 仕組みの満たすべき要件とUAVの性能との対応

- A) 地形の制約を受けずに目的地に迅速に到達する3次元空間の機動力  
⇔ ①、③、④、⑧、⑪
- B) 抑制された設置費用とランニングコスト ⇔ ②、⑥、⑦
- C) 平時と災害時を連続した状況として捉え、フェーズフリーに対応できる能力  
⇔ ⑤、⑫、⑬、⑭
- D) 多くのUAVが協調しつつ自律的に多地点の状況分析に対応できる制御機能  
⇔ ⑬、⑮
- E) 完全な自動化と安全・安心な運用 ⇔ ⑨、⑩、⑪、⑭、⑰、⑱

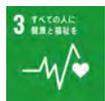
UAVが拠点ビジョン実現に  
おけるキーテクノロジー



### 達成したいSDGs



SDG1：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



SDG3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



SDG4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



SDG9：レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る



SDG10：国内および国家間の不平等を是正する



SDG11：都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

### 課題に対応した5D-MaaSフェーズフリー

課題	通常時活用例	緊急時活用例
<p>地元で働ける場所が少ない</p>	<p>UAVを活用した運搬・観測・エンタメ事業の雇用機会の拡大</p>	<p>UAVによる被災状況の把握・データ転送</p>
<p>病院が遠くて健康面が不安</p>	<p>UAVによる遠隔診断で安心</p>	<p>万が一の際にはUAVがAEDを配達</p>
<p>都会と地方で教育に差がある</p>	<p>遠隔授業やUAV教育の対象地域が限定されない</p>	<p>緊急時にはUAVやUAVポートが通信環境をつくる</p>
<p>観光資源に乏しく労働人口も少ないので地元企業が衰退してる</p>	<p>IOWN・UAVの普及で業務効率が向上するとともに新規産業も創出</p>	<p>IOWN・UAVの普及により災害時の対応が速い</p>
<p>スーパーに行くのが大変</p>	<p>UAVの買い物代が便利</p>	<p>災害時にはUAVが必要物資を配達</p>
<p>車→飛行機→バスと目的地までの移動が煩雑で待ち時間も発生</p>	<p>5D-MaaSの活用で自宅から目的地までシームレスに移動可能</p>	<p>災害時の限られた交通手段を効率的に活用可能</p>
<p>まちの職員は緊急時の業務量が多い</p>	<p>5D-MaaSによる通常業務の効率化</p>	<p>5D-MaaSを活用したBCPによる緊急時業務の効率化</p>

5D-MaaSフェーズフリーとは、UAVを中心とした陸海空のモビリティを通常時から緊急時までシームレスに活用し、いついかなる時も1人も取りこぼすことなく、格差に左右されず、全ての人々の生命と財産を守り、社会活動を安定に維持することのできる、柔軟でレジリエントな社会を365日実現すること

[ビジョン]

## Game Changer

今迄の社会  
の方向



「しなやか社会」

課題

- 深刻な人材不足
- 大規模災害の増加
- 広がる格差
- 天然資源への負荷

- ① システムの構築
- ② 地域での実験と検証の積み重ね



### 5D-MaaS

緯度・経度・高度の3次元空間×実世界の時間×平時から災害時までをフェーズフリーに予測する未来時間の5次元空間のMaaS(Mobility as a Service)

キーテクノロジー: UAV※

※UAV=ドローンをはじめとする無人航空機  
既存の交通インフラの改変は困難  
⇒インフラ未整備の空に着目

プラットフォーム: IOWN

光や無線をベースとする革新的技術を活用した、高速大容量通信基盤の構想



今後の社会  
のあり方



平時と災害時を区別なく柔軟に対応する  
「フェーズフリーな超しなやか社会」

産業革命から数世紀に渡る、  
社会の発展構造の大変革  
ウィズ/ポストコロナ時代に対応できる、  
災害にも強い持続可能な社会



ターゲット 1 フェーズフリーな5D-MaaSの仕組み (技術開発)

ターゲット 2 5D-MaaSの受容に向けた社会的価値の共有 (全体最適検討)

ターゲット 3 5D-MaaSを中心とした都市のプロトタイプ創造 (BBBも含めた都市のあり方)

ターゲット 4 5D-MaaSにおける世界的な研究教育拠点の構築

研究開発課題 1 ネットワークセンシングとデータ流通基盤の整備

研究開発課題 2 最適分散制御技術の開発

研究開発課題 3 社会的価値の共有

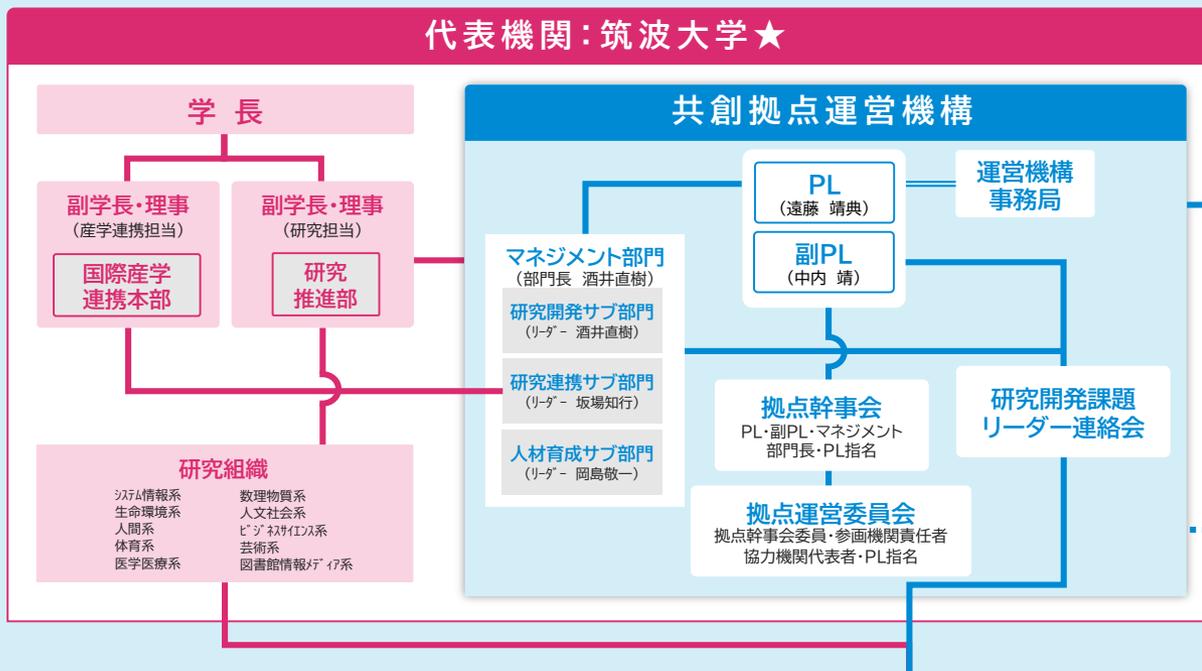
研究開発課題 4 ニーズに応じた社会的価値の創出

研究開発課題 5 プロトタイプ都市の創造

研究開発課題 6 知の研究教育拠点の構築

\*Build Back Better

## 代表機関：筑波大学★



## 参画機関

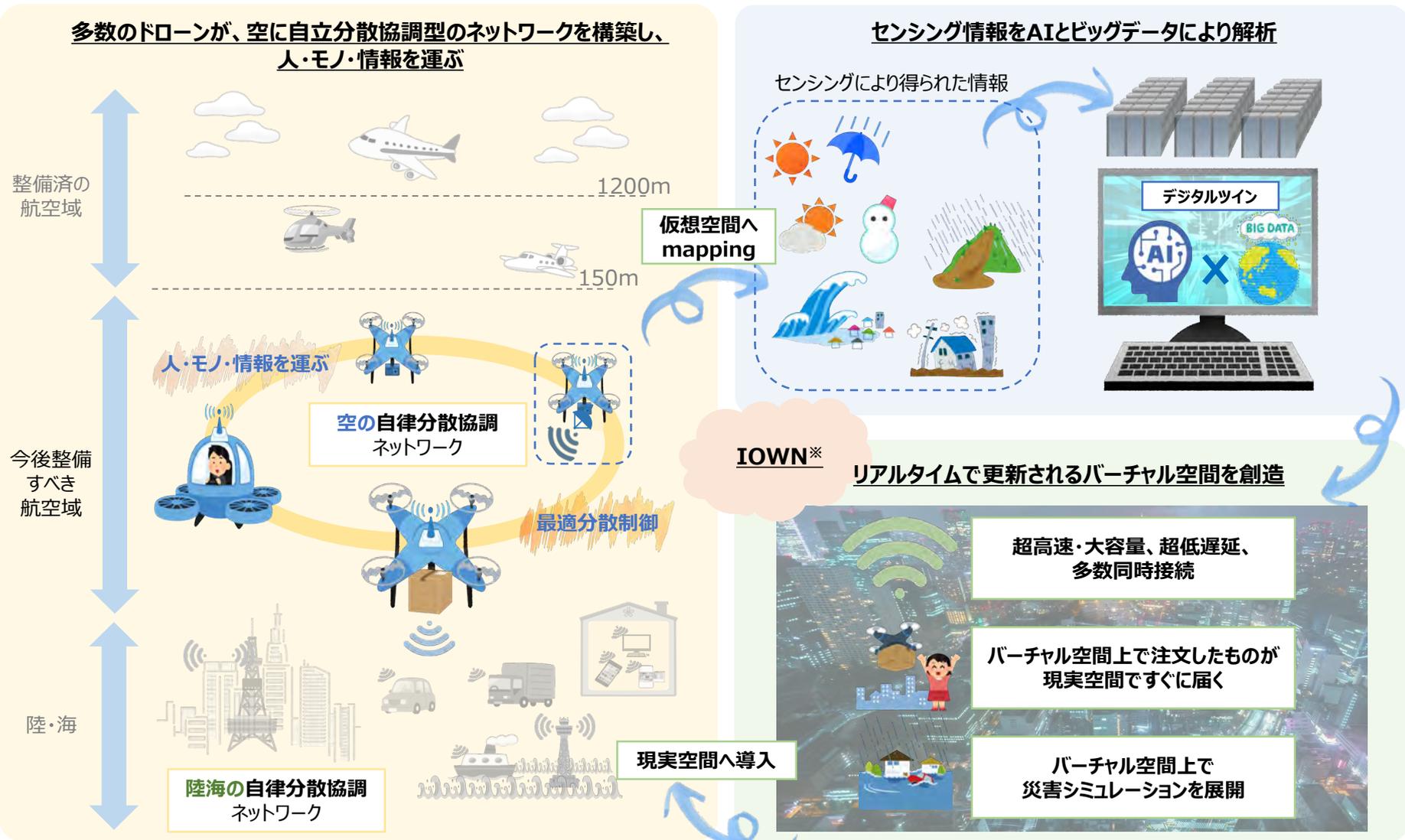
防災科学技術研究所★(NIED)	(研究開発責任者:酒井直樹)
NTT宇宙環境エネルギー研究所★	(実施責任者:久田正樹)
日本航空 (JAL)	(実施責任者:村越仁)
ウェザーニューズ (WNI)	(実施責任者:高森美枝)
ACSL	(実施責任者:幸田銀河)
神戸市	(実施責任者:上月崇生)
神石高原町	(実施責任者:中野達也)
瀬戸内町	(実施責任者:佐多勝)
広島市消防局	(実施責任者:中井英規)

## 協力機関

北海道大学, 坂町, 産業技術総合研究所★, 電力中央研究所★, 労働安全衛生総合研究所★, 電子航法研究所★, DRIジャパン★, 日本自動車研究所★, セコム★, 大日本印刷★, 東急プロパティマネジメント★, NEC★, 東急総合研究所★, 東京海上日動火災保険★, 国家災害防救科技中心(台湾)★, 海外連携大学(フランス, マレーシア, 台湾)

<b>研究開発課題 ①</b> <b>ネットワークセンシング</b> (リダー- 中内靖) 筑波大, NIED, NTT宇宙研, JAL, WNI, ACSL	<b>研究開発課題 ②</b> <b>最適分散制御</b> (リダー- 延原肇) 筑波大, NIED, NTT宇宙研, JAL, WNI, ACSL	<b>研究開発課題 ③</b> <b>社会的価値の共有</b> (リダー- 内山庄一郎) 筑波大, NIED, JAL, WNI, ACSL, 神戸市, 神石高原町, 瀬戸内町, 広島市消防局	<b>研究開発課題 ④</b> <b>社会的価値の創出</b> (リダー- 北原格) 筑波大, NIED, JAL, WNI, 神戸市, 神石高原町, 瀬戸内町, 広島市消防局	<b>研究開発課題 ⑤</b> <b>プロトタイプ都市の創造</b> (リダー- 酒井直樹) 筑波大, NIED, NTT宇宙研, JAL, WNI, ACSL, 神戸市, 神石高原町, 瀬戸内町, 広島市消防局	<b>研究開発課題 ⑥</b> <b>知の研究教育拠点の構築</b> (リダー- 岡島敬一) 筑波大, NIED, NTT宇宙研, JAL, WNI, ACSL, 神戸市, 神石高原町, 瀬戸内町, 広島市消防局
--	---	---	---	---	---

外部評価委員会



- ◆ 大容量高速ネットワーク→遅延のないリアルなVR環境
- ◆ 人・モノ・情報を運ぶUAV→どこにいても人・モノ・情報に素早くアクセス

39 **リアル「どこでもドア」**

※ NTTが提案する次世代ネットワーク「Innovative Optical and Wireless Network」

2023年 9月 5日

株式会社ナノオプト・メディア代  
表取締役社長 大嶋 康彰 様

## Security Days Fall 2023【東京・大阪】 後援名義使用承諾書

2023年 8月 30日に申請がありました、標記の件につきまして、後援名義使用を承諾いたします。

団体名： レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 公印  
省略

---

代表者名： 寶 馨

---

代表者肩書き： 会長

---

### 【ご担当者連絡先】

---

ご担当者名： 酒井 美和

---

部署・お役職等： 事務局

---

e-mail： r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

---

URL： ※Web サイト内にリンクを貼らせていただきます。  
https://r2ec.jp/

---

ご住所： 〒305-8573  
茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学システム情報エリア支援室内

---

電話番号： 029-853-4975

---

※ご承認いただきました際には、お手数をお掛けいたしますが2023年9月8日(金)を目途に  
担当渡邊( [hidwatan@f2ff.jp](mailto:hidwatan@f2ff.jp) )宛までメールにてお送りください。  
※団体表記、URLなどはSecurity Days Fall 2023 サイト内に反映されます。

2023年8月吉日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

会長

實 馨 様

株式会社ナノオプト・メディア

代表取締役社長 大嶋 康彰



## Security Days Fall 2023 後援名義使用申請書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨今の働き方改革などにおいて、インターネットの重要性、またそれに伴うセキュリティ対策の重要性が叫ばれて久しい中、サイバー攻撃/標的型攻撃などによる重大な情報漏洩事故は依然として後を絶ちません。一般の企業活動に用いる情報システムに対して、これまで以上に強固なセキュリティ対策が求められているのはもちろんのこと、重要インフラの制御システムから AI、IoT などのインフラも含めて、幅広い分野でセキュリティ対策が益々必要となっています。

このような背景を受けまして、企業資産を守る為の各種ツールやソリューションをご紹介すべく、「Security Days Fall 2023」の開催を決定いたしました。本イベントは、情報セキュリティ対策に特化した専門イベントとして、関連情報を網羅して紹介し、その最新の対策を共有する場として、2013 年から規模を年々拡大し開催してまいりました。本イベントの開催においては、独自の視点からもメッセージを発信し、マーケットにとって大きな発展と議論の場となるよう、プログラム内容やテーマについて企画を進めております。

つきましては、『Security Days Fall 2023』に対しまして、貴団体にご後援の名義を賜りたく、ここにご依頼申し上げます。なお、本依頼につきましては、貴団体に金銭的な対価を求めるものではないことを申し添えます。本依頼につき、ご承諾をいただける場合には、下記本件連絡先までメールにてご返信を願えればと存じます。本イベントが、情報セキュリティ対策の重要性を広く共有し、更なるビジネスの発展とオープンな議論の場となれば幸いです。

敬具

記

添付書類:

- Security Days Fall 2023 開催概要
- Security Days Fall 2023 後援名義使用承諾書

以上

<本件に関する事務連絡先>

株式会社ナノオプト・メディア 担当:渡邊 秀春

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-5 Uni-works 新宿御苑 3 階

TEL: 03-6258-0584 / 080-5437-6005 E-mail: hidwatan@f2ff.jp

# Security Days Fall 2023【東京・大阪】

## 開催概要

名 称	Security Days Fall 2023
開 催 日	【東京】 :2023 年 10 月 17 日(火)~20 日(金) カンファレンス&展示会 【大阪】 :2023 年 10 月 26 日(木) カンファレンス&展示会
会 場	【東京】 :JP タワーホール&カンファレンス 東京都千代田区丸の内 2-7-2 JP タワー4 階 【大阪】 :ナレッジキャピタル・カンファレンスルーム 大阪府大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 北館 タワーC 8 階
主 催 ・ 運 営	株式会社ナノオプト・メディア
後 援 団 体 (申請予定)	<p>&lt;全開催共通&gt;:一般社団法人 ICT-ISAC、一般社団法人医療 ISAC、一般社団法人京都府情報産業協会、一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会、一般社団法人日本クラウド産業協会、一般社団法人ソフトウェア協会、一般社団法人サイバーリスク情報センター、一般社団法人 Japan Automotive ISAC、一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター、一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会、一般社団法人情報セキュリティ関西研究所、一般社団法人情報処理安全確保支援士会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人セキュア IoT プラットフォーム協議会、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人電力 ISAC、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人日本 Web 協会、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス、一般社団法人日本コンピュータセキュリティインシデント対応チーム協議会(日本シーサート協議会)、一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター、一般社団法人日本ハッカー協会、一般社団法人 Fintech 協会、一般社団法人和歌山情報サービス産業協会、一般財団法人インターネット協会、一般財団法人大阪科学技術センター、一般財団法人全国地域情報化推進協会、一般財団法人日本サイバーセキュリティ人材キャリア支援協会、一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター、一般財団法人日本情報経済社会推進協会、一般財団法人日本データ通信協会、特定非営利活動法人 ITC 近畿会、特定非営利活動法人滋賀県情報基盤協議会、特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム、特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所、特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会、特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所、特定非営利活動法人日本 Android の会、特定非営利活動法人日本システム監査人協会、特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、特定非営利活動団体ビジネスシステムイニシアティブ協会 (BSIA)、ISACA 大阪支部、京都コンピュータシステム事業協同組合、データベース・セキュリティ・コンソーシアム、日本カード情報セキュリティ協議会 (JCDS)、日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)、フィッシング対策協議会、迷惑メール対策推進協議会、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム、日刊工業新聞社</p> <p>&lt;東京・大阪開催&gt;:特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会</p>
構 成	基調講演、主催者枠講演、スポンサー講演、展示会

講演、展示テーマ	標的型攻撃対策、クラウドセキュリティ、ファイアウォール/UTM、ソーシャルメディア対策、ウイルス対策/スパム対策、ドメイン認証、情報漏洩対策、認証/ID 管理、マネージドセキュリティ、DDos 対策、フィッシング対策、リモートアクセス/VPN、IoT セキュリティ、重要インフラ、サイバー訓練・演習、脆弱性対策、インシデントレスポンス/CERT/SOC、メールセキュリティ・誤送信防止、P マーク/ISMS/法令の動向、スマートデバイスセキュリティ、AI によるセキュリティ対策、ランサムウェア対策、技術標準化、データフォレンジック・アーカイブ、マイナンバー対策、監視・検知、個人情報保護、ビッグデータとセキュリティ、その他セキュリティ関連製品/サービス
来場者対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ユーザー企業 経営者/役員、経営企画部門、情報システム部門、システム企画部門、セキュリティ管理部門、総務/管理/購買部門</li> <li>■製造業 製品開発部門、セキュリティ担当部門</li> <li>■インフラ産業 電力・ガス・水道・鉄道等の重要インフラ事業者、セキュリティ担当部門</li> <li>■通信事業者/ISP/データセンター事業者・システム運用部門・システム設計部門</li> <li>■政府・官公庁・自治体</li> <li>■インテグレーター/商社 など</li> </ul>
来場者予定数	<p>【東京開催】 :約 7,000 名</p> <p>【大阪開催】 :約 1,000 名</p> <p>※セッション延べ、展示会含む</p>
入 場 料	無料(登録制)
公式 Web サイト	<p>(9 月中旬リニューアル OPEN 予定)</p> <p>&lt;Security Days Spring 実績&gt; <a href="https://f2ff.jp/secd/2023-spring">https://f2ff.jp/secd/2023-spring</a></p>

## 令和5年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム年間活動計画（案）

〔令和5年9月21日版〕

年月	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム・セミナー ・研究会等	リスク・レジリエンス工学 学位プログラム	【参考】 JST共創の場形成支援プログラム
令和5年 4月		<b>第24回幹事会</b> 4月26日（水）15:30～16:30 オンライン		<b>オープンキャンパス</b> 4月23日（日）10:30～16:00 筑波大学総合研究棟B7・8階+オンライン	
5月	<b>第6回総会</b> 5月22日（月）15:00～16:30 オンライン				<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回拠点運営委員会（5月24日）</li> <li>・拠点ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内町(5月27日)※北原</li> <li>・神戸市(6月10日)※中内</li> <li>・広島市坂町小屋浦地区(7月6日) ※酒井</li> <li>・神石高原町(7月27日)※延原</li> <li>・広島市消防局(7月4日・8月7日)※内山</li> </ul> </li> </ul>
6月		<b>第25回幹事会（延期）</b> 6月 日（ ）10:00～11:00 オンライン			
7月				<b>7月実施 前期課程入試（推薦）</b> <b>7月実施 後期課程入試（一般・社会人）*</b>	
8月				<b>8月実施 前期課程入試（一般・社会人）</b> <b>8月実施 後期課程入試（一般・社会人）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム（R2ECと共同）</li> <li>・第4回拠点運営委員会・報告会</li> <li>・オンラインワークショップ（4回）</li> <li>・本格型申請書作成</li> </ul>
9月	<b>第15回運営委員会+参画機関見学会</b> 9月21日（木）14:00～17:00 NTT宇宙環境エネルギー研究所		<b>シンポジウム（JST共創の場と共同）</b> 9月10日（日）13:00～17:30		
10月					
11月		<b>第25回幹事会</b> 11月 日（ ）10:00～11:00 オンライン			・本格型申請締切（予定）
12月				<b>大学院教育改革フォーラム</b> 12月1日（金）・2日（土） つくば国際会議場	
令和6年 1月				<b>1-2月実施 前期課程入試（一般・社会人）</b>	・本格型ヒアリング審査（予定）
2月		<b>第26回幹事会・シンポジウム（Joint Seminar 減災と共同）</b> 2月 日（ ） 場所未定		<b>1-2月実施 後期課程入試（一般・社会人）</b>	・審査結果公表（予定）
3月	<b>第16回運営委員会・参画機関見学会</b> 3月 日（ ）午後 参画機関（場所未定）			<b>R2EC就職説明会</b> 3月頃（調整中）	

\*令和5年10月入学

※総会・運営委員会未開催機関（令和5年9月21日現在）：日本電気、東急プロパティマネジメント、東京海上日動火災保険、東急総合研究所、DRIジャパン、電力中央研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

## 令和5年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 協働大学院教員一覧 (令和5年9月21日現在)

No	氏名	ふりがな	本務先	本務先所属	本務先職名	筑波大学職名 (任用年月日)	大学院担当		
							新規/継続 の別	研究指導/授業 担当の別	担当科目名(単位数)
1	安部 原也	あべ げんや	一般財団法人 日本自動車研究所	自動走行研究部	主任研究員	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論(1.0)ほか
2	臼田 裕一郎	うすだ ゆういちろう	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	防災情報研究部門	部門長・研究統括 ※国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長を兼務	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
3	岡部 康平	おかべ こうへい	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ	主任研究員	准教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I (2.0)ほか
4	加藤 和彦	かとう かずひこ	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	福島再生可能エネルギー研究所 再生可能エネルギー研究センター 太陽光システムチーム	主任研究員	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
5	酒井 直樹	さかい なおき	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	水・土砂防災研究部門	総括主任研究員 ※国立研究開発法人防災科学技術研究所 先端的研究施設活用センター副センター長を兼務	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
6	佐藤 稔久	さとう としひさ	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	ヒューマンモビリティ研究センター 人間行動研究チーム	研究チーム長	准教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I (2.0)ほか
7	島岡 政基	しまおか まさき	セコム株式会社	IS研究所	主任研究員	准教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	サイバーレジリエンス演習(1.0)ほか
8	田原 聖隆	たはら きよたか	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	安全科学研究部門 IDEA ラボ	ラボ長	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
9	藤原 広行	ふじわら ひろゆき	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	マルチハザードリスク評価研究部門	部門長 総括主任研究員	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
10	山本 博巳	やまもと ひろみ	一般財団法人 電力中央研究所	グリッドイノベーション研究本部 ENIC研究部門	上席研究員	教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
11	頭士 泰之	ずし やすゆき	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	安全科学研究部門	主任研究員	准教授(協働大学院) (令和5年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
12	北島 創	きたじま そう	一般財団法人 日本自動車研究所	自動走行研究部	研究員	准教授(協働大学院) (令和5年5月1日)	新規	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I (2.0)ほか

## 令和5年6月30日付け退任

佐波 晶	さなみ しょう	大日本印刷株式会社	メディカルヘルスケア本部 第2ユニット技術開発第2部 第2グループ	主席研究員	准教授(協働大学院)			
------	---------	-----------	-----------------------------------	-------	------------	--	--	--

# 産学連携の学位プログラムで

あなたの**知**を **博士(工学)**に変えます。  
キャリアアップに繋がります。

## 筑波大学大学院

リスク・レジリエンス工学学位プログラムは  
社会人を積極的に受け入れます。

現代社会にひそむ無数の「リスク」  
有事からしなやかに復旧する「レジリエンス」

リスク・レジリエンス工学学位プログラムでは、  
リスクを工学的方法により分析し、レジリエンス社会の  
実現のために活用できる人材を養成します。

リスク・レジリエンス工学学位プログラムは

- 現代社会で必要とされる4つの研究分野で構成

リスク・レジリエンス基盤

情報システム・セキュリティ

都市防災・社会レジリエンス

環境・エネルギーシステム

- 自立した研究者としての研究能力を養成
- 高度専門職業人としての研究能力と豊かな学識を養成
- 博士後期課程(標準3年間)〈学位:博士(工学)〉
- 修了後には大学の客員教員や非常勤講師として人材育成に携わる道も

学位プログラム:達成すべき能力が明示され、それを修得できるように体系的に設計された新しい教育プログラム



世の中を、  
**リスク**で  
診る。

レジリエンスで、  
未来を見る。



## 協働大学院方式によるハイブリッドな教育システム

本学の専任教員に加え、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム(下記)に  
参画する13の企業・研究機関の専門家があなたの知を涵養します。

協働大学院方式

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム



詳しくは <https://r2ec.jp>

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

### 在学生の声

#### 防災科学技術研究所

水井 良暢 さん(博士後期課程在学中)



現在、防災に関わる科学技術の研究所にて勤務しています。

2011年の東日本大震災以降、事前および災害対応期においての情報利活用研究に多く関わっております。

しかし、これらの組織活動では、大きな枠組みであるプロジェクト内にて一部の役割を担うことが多くなり、こだわりを持った深掘りの研究を集中して行うことが難しいと感じ始めていました。

そこで、2020年度に協働大学院の制度が開始されたことを機に、進学することを決めました。

進学したことにより、基礎的な研究の重要性、異なる専門分野との相互理解の必要性、防災科学技術研究の社会的な位置づけについて再認識することができました。

学業修了後も、リスク工学・レジリエンス工学から得られた調査・分析視点から災害に関する情報を深掘りし、今後の防災研究に役立てていきたいと思っています。

## リスク・レジリエンス基盤分野

協働大学院教員

専任教員

### 日本自動車研究所

教授 安部原也 ドライバ行動, 自動車安全性, 自動運転  
教授 内田信行 ヒューマンエラー分析, 自動運転の安全性評価

### 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

准教授 岡部康平 労働災害, 安全設計, 協働ロボット, 介護機器

### 産業技術総合研究所

准教授 佐藤稔久 運転行動の計測・モデル化, 運転の楽しさ

### 大日本印刷株式会社

准教授 佐波晶 再生医療, 不妊治療向け細胞画像解析, 機械学習アルゴリズムの実課題応用における制御

教授 伊藤誠 安全性, 信頼性, ヒューマンファクター  
教授 イリチュ(佐藤)美佳 統計科学, ソフトコンピューティング  
教授 遠藤靖典 クラスタリング, 機械学習, データ解析  
教授 倉橋節也\* 社会シミュレーション, 経営分析, 人工知能  
准教授 木野泰伸\* プロジェクトマネジメント, システム開発  
准教授 古川宏 認知インタフェース, モバイル, 教育・知識  
助教 齊藤裕一 人間機械系, システム安全制御  
助教 高安亮紀 非線形数理モデルの信頼性検証, 数値解析  
助教 三崎広海 計量経済学, ファイナンス, ビッグデータ

## 情報システム・セキュリティ分野

協働大学院教員

専任教員

### セコム株式会社

准教授 島岡政基 認証基盤, トラスト, セキュリティ研究倫理

教授 面和成 ネットワークセキュリティ, 暗号技術の応用  
教授 津田和彦\* 自然言語処理, 情報検索, ソフトウェア工学  
准教授 西出隆志 公開鍵暗号とその理論, 暗号プロトコル設計  
准教授 吉田光男\* 計算社会科学, ウェブ情報学, ソーシャルメディア分析  
助教 高橋大成 情報セキュリティ: ブロックチェーンおよび暗号通貨, 耐タンパハードウェアデバイス, 暗号プロトコル

## 都市防災・社会レジリエンス分野

協働大学院教員

専任教員

### 防災科学技術研究所

教授 白田裕一郎 防災情報, 災害動態解析, 意思決定支援  
教授 酒井直樹 災害リスク, IoT/AI, リモートセンシング  
教授 藤原広行 地震・津波に対するハザード・リスク評価

教授 鈴木勉 都市解析, 空間情報科学  
教授 谷口綾子 都市交通計画, リスク・コミュニケーション  
准教授 梅本通孝 人的被害軽減のための都市・地域ソフト防災  
助教 木下陽平 衛星測地技術の気象利用, SAR, MaaS 利用

## 環境・エネルギーシステム分野

協働大学院教員

専任教員

### 産業技術総合研究所

教授 加藤和彦 太陽光発電システム, 火災・感電リスク  
教授 田原聖隆 ライフサイクル評価, インベントリデータベース  
准教授 頭士泰之 化学物質のリスク評価

### 電力中央研究所

教授 山本博巳 エネルギーシステム分析, 低炭素エネルギー

教授 岡島敬一 新エネルギー技術・システム評価  
教授 庄司学 構造信頼性, 地震・津波災害, ライフライン  
教授 羽田野祐子 環境動態, 放射性核種, 福島事故, エアロゾル  
助教 秋元祐太郎 非破壊診断, レジリエンス電源  
助教 鈴木研悟 多主体系モデル分析, ゲーミング, 工学教育

\*印は東京キャンパス常駐教員です。

## 本プログラムの社会人を応援するコンテンツ

### 社会人のための入学試験

- これまでの研究業績や経験を活かせる**社会人特別選抜**を実施します。
- 試験会場は**つくば**と**東京**から選べます。
- 修士の学位を有していない方も、事前の出願資格審査をパスすれば、出願が可能となります。

### 長期・短期の学修計画

- **長期履修制度**を利用すれば、トータルの学費負担は変わらず学修期間を最大5年間に延長できます。
- **早期修了プログラム**により最短1年間で博士号を取得することも可能です。(条件あり)

### 柔軟で多様な学修・研究環境

- 希望する指導教員が所属する機関で、研究指導が受けられます。
- 東京キャンパス常駐教員を指導教員に指名することにより、夜間や土曜日に東京で研究指導を受けられるほか、**昼夜開講プログラム**の申請により、夜間や土曜日に東京で授業も受けられます。
- 研究指導は、**複数指導体制**(3名)により、大学の専任教員と協働大学院教員の両方から指導を受けることもできます。

### 達成度評価によるきめ細かな学修サポート

- 学生ポートフォリオ等の作成を通じて、自らの達成度を確認しつつ学修を進められます。さらに、年2回の個別面談により3名以上の教員から**学修達成度評価**を受け、その結果を学修の改善に役立てることができます。
- 必要に応じて、ご自身の専門に関わる科目のほか、大学院共通科目や他研究群の科目などを受講することもできます。

■ **就学に必要な経費** 検定料：30,000円 入学料：282,000円 授業料：535,800円 (年額)

奨学金制度、研究支援制度、入学料・授業料免除制度等が利用できる場合があります。  
また、ご自身の機関にも支援制度がある場合があります。 ※勤務先就業規程もご確認ください。

博士前期(修士)課程もあります。詳しくはプログラムサ**47**をご覧ください。 <https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>



## リカレント教育推進事業実施について

リスク・レジリエンス工学学位 PL 岡島

概要

文科省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に8月15日付で採択された。ライフイノベーション学位プログラムとリスク・レジリエンス工学学位プログラムにて共同実施。

プログラム名称：協働大学院方式を基盤としたリカレント学際教育による高度専門人材育成推進プログラム

事業期間：令和5年6月22日～令和6年3月31日

補助対象経費の総額：43,110千円

補助金交付決定額：26,760千円（2/3補助、内リスク分概算11,240千円）

※令和5年度のみであるが令和6年以降の本格実施（自主実施）のための試行・準備としての助成事業

※令和6年度への継続実施申請は検討予定（公募があるかまだ不明）

プログラム概要（申請書抜粋）

大学院と産業界の一体運営による学際的なリカレント教育を実施することにより、成長分野における高度専門人材の育成を強固に推進する。

具体的には、達成度評価システムのオンライン環境構築および高度化を行い、協働大学院方式学位プログラムを通じた「社会的ニーズ」「社会人再教育」に対応可能なトランスボーダー連携、大学院と産業界の一体運営による、社会人に対する高度なリカレント教育学修歴デジタル評価システムの構築を目指す。また、協働大学院方式を実施するライフイノベーション学位プログラムとリスク・レジリエンス工学学位プログラム共同で、成長分野（DX、GX、先端科学技術【AI・バイオ】等）に関するセミナーを開催し、専門分野以外の社会課題や最先端の研究・技術を学際的に学ぶ機会を提供し、広い視野で社会の革新を担う人材を養成する。セミナー受講の所定の要件を満たした学生には、履修証明書（サーティフィケート）を交付する。

R2 学位 P 実施委員（9/6 時点、敬称略）

岡島、伊藤、高安、藤原、島岡

実施内容（令和5年度）

## 1. ライフイノベ学位 P との共同講義開設に向けたオンラインコンテンツ構築試行

- Manaba にコースを立ち上げ（「x23122 リカレント学際教育プログラム（リスク×ライフ）」、設定済）、R2 学位 P とライフイノベ学位 P 双方の学生、教員を登録し、共通プラットフォームとする。
- 双方の海外招聘講義・セミナー、国内外部講師セミナーなどを収録し、上記 Manaba コースのコンテンツに置く。
- R2 学位 P からは今年度まずは RERM とリスク・レジリエンス工学修士／博士特別講義（情報知能災害

リスクマネジメント) (10/20-21 開講) において試行する。

- ▶ 今年度は試行だが、次年度以降ライフと共同で、上記とは別に後期学生向けに「リカレント学際特別講義 (仮称)」を立ち上げる方針。単位化を予定。R2 学位 P とライフ双方の協働大学院教員によるオムニバス形式を検討中。

## 2. 講義室設備更新ならびに社会人学生ラウンジ整備

学位 P 演習, RERM 等で使用し R2 学位 P にとりメインとなっている SB110 室の設備が老朽化しており更新する (約 750 万円)。また、SB712 室を東京キャンパス社会人学生ならびに協働大学院教員主指導学生向けラウンジとして整備する (約 70 万円)。

以上

事務連絡  
令和5年8月15日

人材育成推進事業費補助事業者 御中

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課

令和4年度人材育成推進事業費補助金「成長分野における即戦力人材輩出  
に向けたリカレント教育推進事業」の交付決定について（通知）

標記について、別紙「交付決定通知書」のとおり交付決定しましたので通知します。

ついては、交付決定通知書に記載の補助条件、令和4年度人材育成推進事業費補助金（成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業）取扱要領等を踏まえ、補助金の適正かつ迅速な執行に努められるようお願いいたします。

なお、本補助金は、支払計画の範囲内での請求に基づき、必要に応じて概算払が可能なものとなります。概算払に関する手続については、別途お知らせします。

（本件担当）

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課  
リカレント教育・民間教育事業振興室 担当：前原  
電話：03-5253-4111（内線2092）  
E-mail：syokugyou@mext.go.jp

令和 4 年度人材育成推進事業費補助金  
(成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業) 交付決定通知書

国立大学法人筑波大学長

さきに交付申請のありました令和 4 年度人材育成推進事業費補助金(成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業)につきましては、人材育成推進事業費補助金交付要綱(令和 5 年 1 月 1 3 日文部科学大臣決定)第 5 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

令和 5 年 8 月 1 0 日

文 部 科 学 大 臣 永 岡 桂 子  
(公印省略)

記

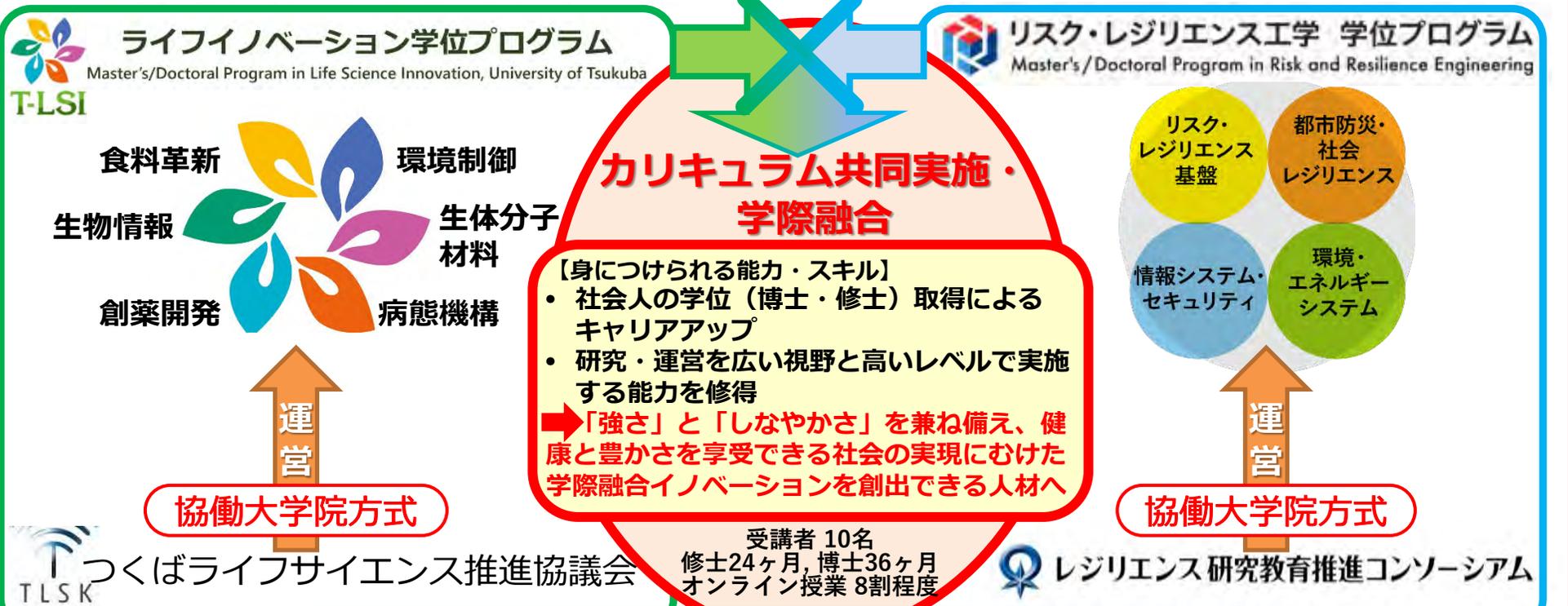
1. 補助金の交付の対象となる事業名称は次のとおりであり、その内容は交付申請書に記載のとおりとする。  
大 学 等 名 : 筑波大学  
事 業 名 称 : 成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業  
プログラム名称 : 協働大学院方式を基盤としたリカレント学際教育による高度専門人材育成推進プログラム
2. 補助対象経費及び補助金の額は次のとおりであり、各補助対象経費の額は交付申請書記載のとおりとする。  
補助対象経費の総額 : 4 3, 1 1 0, 0 0 0 円  
補助金交付決定額 : 2 6, 7 6 0, 0 0 0 円
3. 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和 3 0 年法律第 1 7 9 号)、同法施行令(昭和 3 0 年政令第 2 5 5 号)及び人材育成推進事業費補助金交付要綱に従わなければならない。また、その他関係法令を遵守すること。
4. 補助条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。

- (1) 補助事業の実施期間は、交付申請書に記載された補助事業の完了予定日までとする。
  - (2) 補助事業者が、この補助金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内で補助金の返還を命ずることがある。
  - (3) 補助事業者は、補助事業の実施に当たり、法令、通知及び各大学等で定められた規定等により、承認・届出・確認等が必要な場合は所定の手続を行わなければならない。
5. この交付決定の内容又はこれに付した条件に不服があることにより、補助金交付の申請を取り下げようとするときは、令和5年8月24日（木）までにその旨を記載した書面を文部科学大臣に提出すること。

筑波大学 メニューD

「協働大学院方式を基盤としたリカレント学際教育による高度専門人材育成推進プログラム」  
 (情報システム・セキュリティ・都市防災・環境・エネルギーシステム/食品機能学・創薬化学等)

リカレント学際教育による高度専門人材育成



「社会的要請」、「社会人再教育」に対応可能なトランスボーダー連携

**協働大学院方式：国内外の民間企業・公的研究機関との協働による学位プログラム運営**

<連携> 協働大学院教員、非常勤講師派遣、インターンシップ、社会的要請・課題の提案  
 教育・人材育成に関する提案、製品・サービス開発に関する提案

大学院
 民間企業・公的研究機関

作成プログラムの横展開：「リカレント学際特別講義」などで共同開催する講演会は、一般学生のみならず、企業・研究機関からも参加を広く募り、最先端の知識を波及すると共に、参加者相互の人的ネットワーク構築にも貢献する。⇒ 部分受講者 120名;プログラム活用企業等数 27機関

15. 事業実施委員会			
委員会名	リカレント学際教育人材育成プログラム 実施委員会		
目的・役割	リカレント学際教育による高度専門人材育成推進プログラムに関わる以下の内容を検討し、決定・実施する。		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの開発・実施</li> <li>・プログラムの広報活動</li> <li>・受講者の管理(選考・履修支援)</li> <li>・予算執行管理</li> <li>・協働大学院参画機関との連携</li> <li>・調査研究(効果検証)</li> </ul>		
委員数	10 人	開催頻度	年4回

## 委員会の構成員

	氏名	所属・職名	役割等
1	市川 創作	筑波大学 生命環境系 教授 ライフイノベーション学位プログラム リーダー	全体統括、プログラム開発・実施統括責任者
2	岡島 敬一	筑波大学 システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プロ グラムリーダー	全体副統括、プログラム開発・実施副責任者
3	田村 具博	産業技術総合研究所 産総研生命工学領域 長 つくばライフサイエンス推進協議会 副会長	協働大学院参画機関との連携、調査研究(効果検証)(打診中)
4	藤村 高穂	筑波大学 教授(協働大学院) アステラス製薬(株)非臨床バイオメディカル推進G 課長 つくばライフサイエンス推進協議会 幹事	協働大学院参画機関との連携、調査研究(効果検証)(承諾済み)
5	伊藤 誠	筑波大学 システム情報系 教授	プログラム開発・カリキュラム構築(承諾済み)
6	高安 亮紀	筑波大学 システム情報系 助教	プログラム開発・カリキュラム構築(承諾済み)
7	平川 秀彦	筑波大学 生命環境系准教授	カリキュラムの開発・実施、広報活動(承諾済み)
8	宮前 友策	筑波大学 生命環境系准教授	カリキュラムの開発・実施、広報活動(承諾済み)
9	藤原 広行	筑波大学 教授(協働大学院) 防災科学技術研究所 マルチハ ザードリスク評価研究部門長	プログラム開発・参画機関連携(承諾済み)
10	島岡 政基	筑波大学 准教授(協働大学院) セコム(株) IS研究所 主任研究 員	プログラム開発・参画機関連携(承諾済み)

※欄が不足する場合は、適宜追加してください。

※委員の承諾状況(承諾済み、打診中 等)について、「役割等」に記載すること。

令和 5年 9月 吉日

各 位

国立大学法人筑波大学  
副学長（教育担当）  
大学教育改革フォーラム 2023 事業委員会委員長  
加藤 光 保

## 「大学院教育改革フォーラム 2023」の開催のご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

Society 5.0、SDGs の実現を見据え、将来の社会・経済を担う高度な「知のプロフェッショナル」養成への希求が日々高まる中、大学院教育施策は新たな局面を迎えており、卓越大学院プログラムにおける取組・成果を広く大学関係者が共有し、議論する場が求められております。

そこでこの度、本学が幹事校として「大学院教育改革フォーラム 2023」を下記の日程で開催する運びとなりましたので、ここにご案内申し上げます。

本フォーラムでは、『国際性と学際性の日常化』をメインテーマとしつつ、大学院教育改革に向けた幅広い視点からの意見交換の場として、博士人材の育成に関わる各大学における教育プログラムの成果や取り組みを共有し、今後の博士課程教育の在り方について実りある議論を行いたいと考えております。

ご多忙中とは存じますが関係各所にご周知いただき、ぜひ皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご不明な点などがございましたら、担当までお問い合わせください。

末筆ながら、皆様のさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

謹白

## 記

1. 開催日時 令和 5年 12月 1日（金） 13:00～18:00  
令和 5年 12月 2日（土） 9:00～12:30
2. 会場 つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園 2-20-3）
3. 開催テーマ 国際性と学際性の日常化
4. その他 本フォーラムはハイブリッド形式での開催となります。  
12月 1日（金）の終了後にレセプションを開催いたします。  
詳細は HP (<https://gradschool-forum2023.projects.tsukuba.ac.jp/>) をご覧ください。

担当  
筑波大学大学院教育改革フォーラム 2023 事務局  
305-8577 つくば市天王台 1-1-1  
（筑波大学教育推進部グローバル教育院内）  
e-mail : forum2023@un.tsukuba.ac.jp

# 国際性と学際性の日常化

Normalization of  
internationality and  
interdisciplinarity

## 大学院教育改革 フォーラム2023

FORUM FOR GRADUATE SCHOOL  
EDUCATIONAL REFORM 2023

12月1日(金)・2日(土) つくば国際会議場

December 1-2, 2023 Tsukuba International Congress Center

「国際性と学際性の日常化」とは、すべての教室、研究室での活動が国際通用性のあるものとなり、すべての学生があらゆる組み合わせの学際的な学びを選択することを可能とすることです。本フォーラムが、異なる背景や異なる学問分野の学生同士が共に語り合い、大学の将来像を構想する場になることを願っています。

"Normalization of internationality and interdisciplinarity" means that all classroom and laboratory activities will be internationally viable and that all students will be able to choose any combination of interdisciplinary studies. We hope that this forum will serve as a platform where students from different backgrounds and academic disciplines can come together, engage in dialogue, and envision the future of universities.



我が国の大学院で国際性と学際性の向上というと、留学生を受け入れる英語プログラムを作ることと医学と工学などの学際研究科を作ることについて議論される場合が多いです。私たちはすべての教室、研究室での活動が国際通用性のあるものとなり、すべての学生があらゆる組み合わせの学際的な学びを選択することを可能とする大学院制度が重要であると考え、これを「国際性と学際性の日常化」と呼んでいます。本フォーラムが、留学生と日本人学生、異なった学問分野の学生同士が共に語り合い、大学院の将来像を構想する場になることを願っています。

**加藤 光保**

国立大学法人筑波大学 副学長(教育担当)  
大学院教育改革フォーラム 2023 事業委員会委員長

プログラム

1日目 12月1日(金) 13:00~18:00, 18:15~19:30		
12:15~	受付	
13:00~13:30	開会の辞 開会の挨拶	メインホール
13:30~14:00	基調講演	メインホール
14:00~14:30	事例紹介	メインホール
14:45~16:30	修了生事例紹介 パネルディスカッション	メインホール
16:45~18:00	パラレルセッション	
	プログラム関係者向け	中ホール
	卓越大学院プログラム/リーディングプログラム意見交換会	
	大学院生向け	中会議室
	ワークショップ(グループディスカッション)	
	大学院生向け	多目的ホール
	ポスターセッション	
18:15~19:30	レセプション	多目的ホール

2日目 12月2日(土) 9:00~12:30		
8:30~	受付	
9:00~11:30	ワークショップ 成果発表会 (メインホール)	ポスターセッション (多目的ホール)
	ワークショップ及びポスター審査・表彰	
11:45~12:30	閉会の辞 (メインホール)	



基調講演

**登 大遊 氏**

独立行政法人情報処理推進機構  
サイバー技術研究室長



事例紹介

**勝野 雅央 氏**

名古屋大学  
情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス  
卓越大学院 (CIBoG)  
プログラムリーダー

## Greeting



When we talk about improving internationality and interdisciplinarity in our graduate schools, we often discuss the creation of English-language programs that accept international students and the creation of interdisciplinary graduate schools, such as medicine and engineering. We believe it is important for all classroom and laboratory activities to be internationally viable and for the graduate school system to enable all students to choose any combination of interdisciplinary studies, which we call "normalization of internationality and interdisciplinarity. We hope that this forum will provide an opportunity for international and Japanese students, as well as students from different academic disciplines, to talk together and envision the future of the graduate school.

### Mitsuyasu Kato

University of Tsukuba as a Designated National University Vice President (Education)

Forum for Graduate School Educational Reform 2023 The Chairman of the Executive Committee

## Program

First Day 2023/12/01 (Fri.) 13:00~18:00, 18:15~19:30

12:15~	Reception	
13:00~13:30	Opening Address	Main Hall
13:30~14:00	Keynote Speech	Main Hall
14:00~14:30	Case Study	Main Hall
14:45~16:30	Case Studies By Graduates Panel Discussion	Main Hall
16:45~18:00	Parallel Sessions	
	For People Concerned	Hall 200
	Opinion Exchange WISE Program Leading Program	
	For Graduate	Room 201/202
18:15~19:30	Workshop (Group Discussion)	
	For Graduate	Multi-Purpose-Hall
	Poster Session	
18:15~19:30	Social Gathering	Multi-Purpose-Hall

Second Day 2023/12/02 (Sat.) 9:00~12:30

8:30~	Reception	
9:00~11:30	Workshop (Results Presentation) (Main-Hall)	Poster Session (Multi-Purpose-Hall)
	Awards Ceremony (Workshop / Poster Session) Closing Address (Main-Hall)	

### Keynote Speech



### Daiyuu Nobori

Researcher at Information-technology  
Promotion Agency, Japan

### Case Study



### Masahisa Katsuno

Nagoya University  
Convolution of Informatics and  
Biomedical Sciences on Glocal  
Alliances, CIBoG  
Program Leader



HP



Facebook



Twitter

## お問い合わせ / Contact Us

大学院教育改革フォーラム 2023 事務局（筑波大学グローバル教育院内）：[forum2023@un.tsukuba.ac.jp](mailto:forum2023@un.tsukuba.ac.jp)

卓越大学院プログラム  
WISE Program



Ph.D. Program in  
Humanities  
ヒューマンクス学位プログラム



創基 151年  
筑波大学 50周年記念  
50TH ANNIVERSARY OF  
UNIVERSITY OF TSUKUBA



筑波大学  
University of Tsukuba